

広報

なは

市民の友

第603号 毎月1回発行
2001年（平成13年）

4月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

「那覇市民の時間」毎週日曜日
RBC・午前9時15分から25分まで

みんなであそぼう
ラジオ大広報

わたしたちの環境が壊れかけている!

約 **300億円**

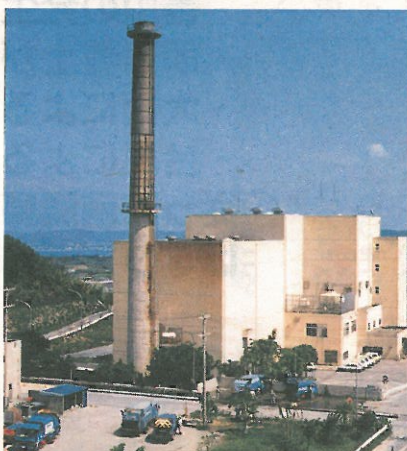
市民1人当り10万円
4人家族で40万円

かけてつくる

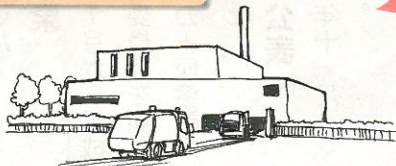
ごみ焼却炉建設事業 ご存知ですか？

今後20年間の那覇市の未来環境を 決定する究極の選択!

次世代型か？
(ガス化溶融炉)
現代普及型か？
(ストーカ炉+
灰溶融炉)



環境センターで焼却(220トン)



浦添市に委託(40トン)
(約1億円/年)



那覇市で1日に出る燃やすごみ
(300トン)

燃やさずにそのまま最終処分場
に埋め立てている(40トン)

みんなで考えよう 未来の環境!

2年後……最終処分場は限界

(南風原町にあります。)

焼却残(燃えガラ)を埋める



燃やさずに最終処分場に埋めた、燃やすごみや生ごみが原因で、悪臭や汚染水などの環境問題が発生し、地域住民のみなさまに大変ご迷惑をおかけしている。

南風原町の要請

○最終処分場のゴミの再処理

○新焼却炉は平成十四年度着工
(議論する時間が限られている)

○450トンの焼却炉の建設

翁長雄志那覇市長の考え方

○前市政の決定した現代普及型(ストーカ炉+灰溶融炉)

は、これまで活躍してきた機種で安定性はある。しかし、ゴミの再処理ができないまま残る。さらに検討の経緯をみるとストーカ方式ありきの感がある。

○次世代型(ガス化溶融炉)は、ゴミの再処理が可能であり、有害ダイオキシン対策においても理念的に優れている。焼却炉新設は、この二年間に十六件あり、三分の一をガス化溶融炉が占め逆転しつつある。また、那覇市が目指すゼロエミッション構想にも適合する。